

株式会社萌福祉サービス 介護職員初任者研修講座 基本情報

研修機関

法人情報	株式会社 萌福祉サービス 〒063-0001 札幌市西区山の手一条1丁目3番地 代表取締役社長兼CEO 水戸 康智	
研修機関情報	MOE TRAINING CENTER OTARU 〒047-0013 北海道小樽市奥沢1丁目2番2号 医療法人社団 萌水会 老人保健施設 モエズガーデン小樽 3階	
	企業理念	この出会いに感謝し、介護を通して 高齢者やそのご家族、社会のお役に立つことで感動を共有できる企業を目指す。
	学則	別紙参照のこと。
	研修施設・設備	別紙参照のこと。

研修事業情報

研修の概要	対象	・介護に従事しようとする方 ・介護に従事しており、更なるステップアップを望んでいる方 ・心身ともに健康な方 ・上記他、研修責任者が本研修受講者として適当と認められる方
	スケジュール	修業年限/6ヶ月以内、研修期間/約3ヶ月
	定員と指導者数	定員/30名、指導者/25名
	費用	69,800円(テキスト代、消費税含む) ※令和7年度のみ、道補助金対象事業所のため54,000円
	その他	当講座は介護事業者である株式会社 萌福祉サービスが提供する講座です。 多種多様な事業所を運営して蓄積された膨大なノウハウを、余すところなく講座にフィードバックし、実践に即した知識・技術を習得していただきます。 社会状況の変化や、多様化・細分化する介護ニーズに合わせ、介護業界も変革が求められています。我々はそれらに対しどれだけ柔軟に対応できるかがポイントと考えており、基礎となるのはやはり「介護現場で働きたい」という想いであると考えています。しっかりとした将来を描くために、新しい一歩を我々と踏み出しましょう。
	課程責任者	宮下 智美

1.職務の理解(6時間)

多様なサービスの理解
(3時間)

研修科目全体のイメージができるよう学習する内容のポイントを示しながら、適宜視聴覚教材を用いて多様な職場の理解ができるようにする。

介護職の仕事内容や
働く現場の理解
(3時間)

介護職が働いている環境やどのような職場があり、仕事の内容が理解できるよう生活と身の回りを関連づけながら理解できるようにする。

2.介護における尊厳の保持・自立支援(9時間)

人権と尊厳を支える介護
(6時間)

介護職は、利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚できるようにする。特に高齢者の人権を守ることや虐待防止など、調査データを用いて考えを発表し、グループディスカッションする。

自立に向けた介護
(3時間)

自立支援の概念や利用者の自立支援とはどのようなことか残存機能を活かす支援の在り方等事例を用いてグループディスカッションし理解に繋げる工夫をする。

3.介護の基本(6時間)

介護職の役割、専門性と
多職種との連携
(2時間)

在宅介護をしている事例から、介護職の社会的な役割や規範、また専門職として他職種連携の視点を持てるように個別ワーク・グループディスカッションに取り組み理解できるよう工夫する。

介護職の職業倫理
(2時間)

一般的な職業倫理の理解から介護に求められる職業倫理とは何か考えられるよう体験を語り合いながら人権についても考える工夫をする。

介護職の安全と
介護における安全の確保と
リスクマネジメント(1時間)

介護における安全の重要性を日常生活の中で見だせるよう視聴覚教材を用いて思考させる。リスクマネジメントでは予防と事故報告の内容まで検討しながら、安全への行動が取れるようにする。

介護職の安全
(1時間)

介護職の心身の健康管理について、手洗いの基本、マスクの正しいつけ方などの感染予防、腰痛予防やストレス解消方法など方法を理解できるように具体例をあげ、理解できるように工夫する。

4.介護・福祉サービスの理解と医療との関係(9時間)

介護保険制度
(3時間)

介護保険制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的・サービス利用の流れ、被保険者・給付の手続き・種類・内容などをテキストを活用しグループディスカッションで理解できるようにする。

医療との連携と
リハビリテーション
(3時間)

医療職と介護職の連携の意義と役割について医行為を含めて学ぶ。また、訪問介護の制度とその内容について、リハビリテーション介護の意義と役割と必要性を理解できるようにする。

障害者自立支援制度
及びその他の制度
(3時間)

障害者自立支援制度、個人情報保護法、成年後見制度についての目的・サービス利用の流れ、被保険者・給付の手続き・種類・内容をグループディスカッションし発表し、理解できるようにする。

5.介護におけるコミュニケーション技術(6時間)

介護における
コミュニケーション
(3時間)

利用者との人間関係の基本となるコミュニケーションの基本的な技法について、講義およびコミュニケーションワークを通して理解できるようにする。利用者の状況に応じたコミュニケーションの留意点について、ロールプレイを取り入れることで気づきを促す工夫をする。

介護におけるチームの
コミュニケーション
(3時間)

記録の機能と重要性、記載方法について、介護記録の記載例を示しながら理解できるようにする。グループディスカッションに取り組みながら、チームにおけるコミュニケーションを促す環境について考えることができるように工夫する。

6. 老化の理解(6時間)

老化に伴うところとからだの変化と日常(2時間)	講義及び身近な高齢者を想起させて老化に伴う心身の変化とその特徴を学習し、日常生活への影響と支援の必要性を思考・理解する。
高齢者と健康(4時間)	高齢者に多い疾病等を想起させ、代表的な疾病・症状等について視聴覚教材等を用いて講義し、グループディスカッション等を行い生活上の留意点を検討・理解する。

7. 認知症の理解(8時間)

認知症を取り巻く状況(2時間)	認知症や認知症の人、家族を取り巻く状況について、新聞記事や視聴覚教材を用いて考えることができるよう工夫する。特に、認知症ケアの理念については、事例を用いてロールプレイし理解できるようにする。
医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理(3時間)	認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、診断、治療、予防、原因疾患別のケアのポイントについてグループディスカッション、最新の情報が得られるように、視聴覚教材を活用する。
認知症に伴うところとからだの変化と日常生活(2時間)	認知症の人の心理・行動の特徴を示しながら、それによりどのような生活障害が生じてくるのかについて考えることができるようにロールプレイする。具体的な事例を示しながら、認知症の人の介護をロールプレイし、原則が理解できるようにする。
家族への支援(1時間)	認知症の利用者を持つ家族の気持ちや家族がうけやすいストレスについてグループディスカッションし、理解できるようにする。

8. 障害の理解(4時間)

障害の基礎的理解(1時間)	障害とは何か、障害とICFの関連やノーマライゼーションと障害者福祉について歴史変遷を踏まえ学習できるようにノート作成の工夫をする。
障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識(2時間)	障害の種類と程度をテキストで学習し、かかわりの支援については複数事例を用いてグループディスカッションし障害の違いを理解できるようにする。
家族の心理、かかり支援の理解(1時間)	家族や当事者へのかかわりでは事例を用いてグループディスカッションを行い各自が理解できるよう振り返りの工夫をする。

9. ところとからだのしくみと生活支援技術(80時間)

① 基本知識の学習(13時間)

介護の基本的な考え方(3時間)	介護における倫理を学ぶとともに、ICFを通し、介護の対象者を適切にとらえる視点を理解する。
介護に関するところのしくみの基礎的理解(5時間)	介護対象者のところ及び介護サービス提供方法の根拠に心に関連する基礎知識について、視聴覚教材の活用及び受講者の心に照らし合わせて学習を進める。
介護に関するからだのしくみの基礎的理解(5時間)	介護対象者のからだ及び介護サービス提供方法の根拠にからだに関連する基礎知識について、視聴覚教材の活用及び受講者のからだに照らし合わせて学習を進める。

9. ころとからだのしくみと生活支援技術(80時間)

②生活支援技術の講義・演習(55時間・演習含む)

生活と家事 (4時間)	家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的な知識と生活支援について、講義(視聴覚教材も使用)・ワーク・演習を通して理解できるようにする。
快適な居住環境と介護 (4時間)	快適な生活を送るための環境整備の方法や、高齢者や障害者の特性を理解した上で、福祉用具や住宅改修などの方法もふまえてみる。
整容に関連した ころとからだのしくみと 自立に向けた介護(6時間)	身じたくや整容の意義や効果を理解し、身体状況に合わせた整容支援の方法や衣服の選択・着脱の支援の方法や原理原則をふまえて、演習する。
移動・移乗に関連した ころとからだのしくみと 自立に向けた介護(8時間)	移動と社会参加について考え、移動、移乗についての基礎知識を学んだ上で、ボディメカニクスや利用者の自然な動きをふまえて、具体的な移乗支援方法や移動支援方法について演習する。
食事に関連した ころとからだのしくみと 自立に向けた介護(8時間)	食事の意味や咀嚼や嚥下のメカニズム、脱水や低栄養について学び、食事支援の具体的な方法、福祉用具を使った支援方法などを演習する。また、口腔ケアについても演習を行う。
入浴・清潔保持に関連した ころとからだのしくみと 自立に向けた介護(8時間)	入浴・清潔保持の意義や具体的支援方法について学び、プライバシー保護などの留意点をふまえて、全身清拭や部分浴などの演習を行う。
排泄に関連した ころとからだのしくみと 自立に向けた介護(8時間)	排泄の身体的、心理的、社会的意義や仕組み、排泄障害について学び、排泄環境や排泄用具について考え、利用者のプライド、羞恥心、プライバシーに配慮した具体的な排泄支援方法について演習する。
睡眠に関連した ころとからだのしくみと 自立に向けた介護(6時間)	睡眠の定義、メカニズム、睡眠に伴う身体生理機能の変化を学び、睡眠環境や用具の活用方法を含めた安眠のための介護の工夫を演習する。
死にゆく人に関連した ころとからだのしくみと 終末期介護(3時間)	事例を用いた個人ワーク等を通じて死にゆく人・家族の心理を思考し、ころの理解を深める。また講義により心身及び終末期ケアに関する基礎的理解を深め、グループディスカッションにて支援方法を検討する。

③生活支援技術演習(12時間)

介護過程の基礎的理解 (8時間)	介護過程の目的・意義・展開、介護過程とチームアプローチについての知識を講義で理解できるようにし、演習で事例を展開させて理解できるようにする。
総合生活支援技術演習 (4時間)	整容、移動・移乗、食事、入浴・清潔、排泄、睡眠で使用した2事例を使用し、ころとからだの力が発揮できない要因の分析と適切な支援技術の検討をグループで考え、実際に演習し、そこで何が課題なのかどうしたらよいかの対応を考えさせ、さまざまな知識・答えは1つではないことを理解できるようにする。

10. 振り返り(4時間)

振り返り (3時間)	研修全体を通し、学んだことや今後の継続すべき課題などを振り返り考える。また、在宅や施設であっても適切なマナーが図れるよう、身だしなみや言葉づかい、対応の態度等の礼節などを学ぶ。
就業への備えと 研修終了後における実例 (1時間)	介護現場への就業がイメージできるよう、視覚的教材や現場職員の体験談などを通し、継続的な研修の必要性について学ぶ。
全科目終了後の修了評価 (1時間)	

研修
カリキュラム

通学

主要テキスト/株式会社 日本医療企画「介護職員初任者研修テキスト」

①学習方法

- ・テキストに沿った添削課題をそれぞれ設定する提出期限までに提出していただきます。
ただし、合格点に達しない場合は、合格点に達するまで再提出を求めます。

②評価方法

- ・添削課題については、理解度および記述の適格性・論理性に応じて、担当講師又は添削担当者が添削、評価をおこないます。正解率が6割未満の場合は、再提出していただきます（指導をおこないます）。

③個別学習への対応方法

- ・郵便、FAX又は電子メール等にて質問を受け付けます。添削担当者は、必要に応じて担当講師に紹介し、郵便、FAX又は電子メール等により回答をおこないます。

修了評価

修了の認定は、主要テキストに定めるカリキュラムを全て履修し、筆記試験において合格水準に達している方で、かつ修了認定会議で修了と認められた方に対して行います。

評価は、「A=正解率が9割以上、B=8～8.9割、C=6～8.8割、D=6割未満」の区別で評価し、評価がC以上を合格とます。Dの場合は、事務局が定めた日に補習及び再試験を受けていただきます。

再試験の方法は担当講師から与えられたレポートの提出又は課題の提出によって行います。

開講情報

令和7年度は、9月3日から10月10日の期間で行います→詳しくはこちら

平成28年度より開講 実績なし